

いよいよ POEM`97 開催！

ACE の真夏の祭典「POEM」が、いよいよ今週末に開催されます。今年は隔年の関西での開催年にあたり、大阪のアジア太平洋トレードセンターが会場です。北海道からは、現在学生を含めて 15 名ほどが参加の予定です。要項は以下の通り。ホームページも開設されています（<http://www.ace.or.jp/poem/>）。

< P O E M `97 開催要項 >

- 開催地
ATC（アジア太平洋トレードセンター）
大阪市住之江区南港北
 - 宿泊施設
舞洲スポーツアイランド『舞洲野外活動センター』
 - 開催日程
1997 年 8 月 2 日（土）～ 8 月 3 日（日）
 - 主催
教育とコンピュータ利用研究会（ACE）
 - 後援
ATC エイジェスセンター
MES（障害者とコンピュータ利用研究会）
 - 予定参加者数
500 名
 - 対象
学校教育関係者、企業教育関係者、一般の人（子ども～大人）
 - 参加費
500 円（懇親会参加費用別）
 - 開催内容
 - プレゼンテーションコンテスト「工房売り込み合戦」
 - 海外（タイ）との交流事業の発表●子どものじんち 他
- さて、今回の POEM では初めての試みとして「工房売り込み合戦」が行われます。これは、POEM に来る人が全員イベントに参加することを目指し、グループ単位で作品を企画・制作し、プレゼンテーションで競い合おう、というものです。工房参加者の集め方は自由で、当日会場で募ってもいいのですが、北海道支部では事前に企画を練って工房を結成し、大阪に乗り込むことにしました。では、ACE 北海道の誇る 2 つの工房をご紹介します。

< 工房その 1 > ゼンマイ・ハグルマ工房

主旨

生活の中の機器は、どうして動くのでしょうか？

コンピュータというのは計算機という側面もさることながら、様々な道具の制御装置として現在生活の中にとけ込んでいます。身近にあるいろいろな機械の制御の仕掛けを研究して、アナログのリモコンではなくプログラムによって動く機械を製作します。

普段我々が遠ざかっている「ものづくり」の喜びと、創意工夫を養うという観点、さらには科学技術教育に役立つ教材の開発を行うことを見据えて展開するこのプロジェクトを皆様是非とも応援して下さい。

企画内容

学校で以前教材として使っていた「きゅー。ち」「E P S。N（伏せ字になってない）」などの 286 マシンが余っていません

か？一見なんの役にも多々なような 286 マシンの BASIC を使って、プリンタポート経由で自走式のロボットや車を制御します。操作感覚はアナログのリモコンと同じですが、操作するプログラムをプロセスごとに明らかにしていくことで、モーターを制御する仕組みをわかりやすく理解していただきます。

会場では用意した機械達を実際に触ってもらうプレゼンの他に、制作過程をたどって見てもらうことが出来るようにします。

必要機材

機材は全て持ち込みです。但し、動き回る機械達をわかりやすくしてもらうために若干広めのスペースをご用意していただく必要があります。（3メートル四方程度）

工房担当者

親 方：武田亘明（北星学園女子短期大学）
企画担当者：荒島 晋（札幌市立発寒中学校）
会計担当者：半沢雅宏（千歳市立祝梅小学校）
広報担当者：吉村 匠（株式会社道新メディック）
：塩谷彰浩（日本データサービス）
：佐藤真史（札幌市立福井野中学校）
遠隔サポート@稚内
：尾崎 廉（札幌市立北野台中学校）
：佐々木利彦（札幌八条中学校）

進捗状況

八条中の佐々木先生の活躍により、7/29 現在、1 モーターの象、2 モーターのブルドーザー、3 モーターのフォークリフトなどが次々と DOS パソコンの BASIC で制御できています。その様を見ていると面白くて、童心に還ってしまいます。佐々木先生は、まだ ACE の会員ではありませんが、札幌市内の中学校では超有名な成績処理ソフト、その名も「羊ヶ丘」（羊ヶ丘中にいらっしゃったときに開発した）の生みの親でもある、バリバリの BASIC のプロなのです。ご入会が待ち望まれるところです。POEM 会場では、子供の心をとりこにして、優勝を目指します！



これが動くわけですよ。

< 工房その 2 > デジタル学校新聞・POEM 版

企画内容

ACE 北海道支部では、「デジタル学校新聞プロジェクト」を立ち上げ、生徒たち自身が取材し、考え、交流し、情報機器を

活用して、デジタル出版を行なえるように支援し、その能力開発のための講習会などを行っています。

そこで、POEMにも学生が参加し、彼ら自身で取材から発行までを手がける「デジタル学校新聞・POEM版」を発行しようと思います。

具体的には、会場の様子を取材して原稿を書き、デジタルカメラで撮った写真とともにDTPソフトで新聞を組み、印刷したものを会場内で参加者に配布します。速報に重点を置き、2日間で3回以上の発行を目指します。

また、できあがった新聞をAcrobatを使ってPDF化し、WWW上にレイアウトイメージのままカラーで配信します。POEMに参加できなかった会員や、ACEに興味を持っている一般の方にPOEMの様子を伝えるときともに、遠隔地でも「デジタル学校新聞・POEM版」をプリントして見るができます。

必要機材

・PowerMAC 1台 (DTP レイアウト用)・電話回線 1本
・Quadra 1台、Powerbook 1台、Windows ノート 1台 (原稿入力用)・デジカメ 2台 (取材用)・プリンタ 1台

工房担当者

親 方：由水 伸 (道都大学短期大学部)

企画担当者：青柳貴文 (北海道新聞社)

会計担当者：野口光孝 (道都大学短期大学部)

広報担当者：吉田哲也 (北海道新聞社)

編集制作班：笹原幹男・林 寿光・長峰 準・渡辺 豊

(道都大学短期大学部 2年)

寺田晶子・射水梨沙・新崎美香保

(道都大学短期大学部 1年)

進捗状況

道新にて、制作班の道都短大生に集ってもらい、2度DTP新聞制作講習会を行いました。まったく経験のない彼らですが、たいへん呑み込みが早く、既に短大を紹介するDTP新聞を1枚組み上げ、記事執筆班、写真取材班、レイアウト班といった役割分担も万全です。やはり「高校生の新聞局も、いまやDTP制作へとどんどんシフトしてるんだよ。君らもがんばらんかい!」とのハッパに発奮したようです。実はPOEMでは北陸支部チームも新聞工房を立ててくるのですが、学生が自ら参加して作る、という点で圧倒的に勝利できると踏んでいます。2日間で3回の速報を目指してがんばります。

<工房じゃないけど、その3>

先月号で報告した、NASAのCOTF (未来の教室) プロジェクトの視察に渡米した道都短大の由水先生、野口先生が、1日目の懇親会の時間にプレゼンテーションをします。15分程度ですが、ビデオやCOTFのホームページを使って北海道支部のインターナショナルな活動を紹介してきます。こちらも楽しみです。

MMMキャンプ無事終了!

~「マルチメディア・モバイルキャンプ in 支笏湖」報告~

道都大学短期大学部 由水 伸

(yosimizu@netfarm.or.jp)

7月12日~13日に、ACEとネットワークコミュニティフォーラム'97との合同で、毎年恒例の標記キャンプが行われました。今年のテーマはマルチメディア+モバイルコンピューティング。

NTTDoCoMoさんとの共同研究で、携帯電話が使えるように、

会場のポロピナイキャンプ場に恒久的なアンテナを設置していただいた上、さらに緊急災害対策モバイル電話局 DoCoMo Car が出勤し、大自然のなかでのモバイルコンピューティングができるようになりました。この環境のなかで以下のようなモバイル実験が行われました。

・「札幌~支笏湖実写ルートマップ」(7月12日12時~13時)

札幌から支笏湖までの移動の道すがらの情報を車両に設置したカメラを経由し、WWWにリアルタイムでアップロードした。高校生の森田君が作業を担当。

・「丸焼きオンデマンド」(7月12日午後ずーっと)



パソコンとカメラを使っの簡易定点観測システムを生かし、定版「羊の丸焼」を家にいながら味わえる?企画でした。塩谷さんの大活躍です。

・「夕日オンデマンド」(7月12日夕方~日の入りまで)

ポロピナイキャンプ場は湖の西側にあるため、夕日は恵庭岳にさえぎられ見えない。そこでパソコンとカメラの簡易定点観測システムを湖の反対岸に設置し、携帯電話を通じてそのシステムを遠隔操作。支笏湖周辺の日の入りの映像を携帯電話を使ってキャンプ場に転送。これをプロジェクタに映し出し、湖に映える夕日の風景を楽しみました。対岸で器材に張り付きのDoCoMoの社員さん、どうもありがとうございました。

・「星空のマルチメディア講演会」(7月12日午後20時~21時)

大自然のなかで夜空を見上げながら、携帯電話によりインターネットの 関係 WEB サイトにアクセスして、マルチメディアで星に親しみました。宇宙空間に浮かぶハッブル望遠鏡の鮮やかな画像や火星探査機 (マーズ・パス・ファインダー) からの火星表面の3D画像などが紹介され子供達に受けていました。

・「デジタル押し花支笏湖携帯オリエンテーリング」(7月13日午前9時~11時)

グループに分かれて、携帯電話とノートパソコン、デジタルカメラ、2万5千分の

一の地図をもって、キャンプ場周辺を散策。そこで出会った可愛い草花や小動物をデジタル写真に収め、その画像に撮影位置、携帯電話のアンテナ状況などのコメントを付けて、各グループのホームページにデータをアップしました。支笏湖周辺のデジタル押し花地図&携帯電話電波状況地図を作成。

・携帯電話、携帯ファックスからの情報をFAXサービス・ホー

ムページへ。(7月12日～13日全日程)

キャンプ場から参加者皆さんのコメントなどを、携帯電話に接続した携帯FAXから送信し、さらにその情報をFAXサービスへ自動的にアップしました。このシステムは桜庭さんの作です。
・水中携帯電話の実験(7月12日午後)

携帯電話1台とラジカセ1台を水中3メートルに沈めます。携帯電話を発信状態にして水中からのラジカセの音質状況を調べました。その結果、約1メートルで通話が切れることがわかり、有意義な実験でした。

・衛星通信を活用した携帯電話と携帯FAXの体験(7月12～13日全日程)

衛星携帯電話を介したインターネットや電話、FAXを体験できました。日頃、なかなか触れることのない器材だけに貴重な体験でした。

このほか、もちろん深夜にかけての茶飲み話(酒飲み話)は延々と続き、明けてからはカヌー体験試乗など、いつもの定番行事もしっかりとにぎわっていました。

今回のキャンプのために毎日遅くまで準備を行い、想定される難しい問題を次々クリアし、新技術まで生み出してしまうメンバーの活動力にACE健在の感をもった今回のキャンプでした。

ぜひ http://www.ncf.or.jp/wg/nature/MMM_Camp.html も参照してください。



ほんと、よく焼きました。

会員紀行

様似町立様似小学校 小松和弘

新会員紀行に載せてもらって丁度2年が経とうとしています。この2年間のうちに随分と状況はわかりました。「所詮パソコン通信も一極集中型のメディアにすぎず、都会生活者のもの」と書きましたが、今では私の住む田舎でもOCNが使えるようになり、都市部とかわらない料金で使えるようになってきました。

まずは、今私がやっていること・やろうとしていることについていくつか紹介させていただきます。

一つ目はアイヌ文化のことです。ACEに参加して初めにしたことは、様似のアイヌ古式舞踊のホームページ作りでした。今ふりかえると、教育へのコンピュータ利用というよりは、市民運動のメディアとしてのコンピュータの利用だったかもしれません。アイヌの文化は地元ではあまり評価されてきませんでしたし、学校の先生たちも地元のアイヌ文化教材の掘り起こしを十分行ってきたとはいえない状況です。

今年の1月から北海道ウタリ協会の要請で様似のアイヌ語教室の活動運営に協力することになり、教えながら学ばせていただいております。平取を中心とする日高西部と浦河や様似のある日高東部では同じ日高でも文化的に違いがあります。西部はいろいろ調べられ整理されていますが、東部では記録も乏しく整理もあまりされていません。少しでも文化活動を蓄積していくために、活動内容をホームページにまとめ公開しています。

・ホームページ「北海道あやしい教育研究所」

<http://cityhokkai.of.jp/ayaedu/>

「子どもの権利条約」や「アイヌ新法」のようなものが出てきましたが、これからどのように行っていくのかわかりません。しかし、アイヌ語教室に通ってくる小学生の女の子の「これからアイヌの時代が来るの?」という真面目な問に、私たち大人が快く「そうだよ」と言えるように、地道に運動を続けていかなくてはならないのではと思っています。

二つ目は学校放送のことです。

今年は学校の仕事で児童会放送部の指導を担当させてもらっています。お昼のお弁当の時間に全校放送でコンピュータを活用できないもんだろうかと考えているところです。子どもたちが作った作品の放送展覧会、子どもたちが創作した紙芝居の上映などの準備に取り組んでいるところです。

三つ目は、国際交流のことです。

うちの学校は韓国の初等学校と交流をしています。今年の1月、様似の訪問団の一員として韓国の初等学校を訪問してきました。コンピュータの話もしてきました。韓国のコンピュータの普及率は日本以上ようです。学校の交流でインターネットを活用していきましようという確認をして帰ってきました。

今年度はとりあえず電子メールを、来年度はホームページを活用していこうと考えているところです。道して電子メールかということですが、ホームページを開設して公開してしまうと、いろいろなところから電子メールがくることが予想されます。その場合たくさんのメールが来られても十分対応できないだろうということで、まずはとりあえず間口を韓国のソンホ初等学校にしばって電子メールで交流を行い、その後ホームページを活用して作品の交流を行っていこうと考えています。電子メールを具体的にどのようなふうによりとりするかはこれから詰めていかなければならないところです。韓国語という言葉の壁ですが、翻訳ソフトの普及で壁もうすくなってくるだろうと思います。

この国際交流を推進しているのは、武田先生のDOS/V機を組み立てる会に参加した松本嬢であります。その他、うちの学校でも理解者が増えてきています。ACEに入ってしまった保健室の神谷女史もその一人。

最近<個々人が環境の中で自然や周囲の人間とどう折り合いをつけて、幸せに生きていくか>を学ぶことが大切なのかな、そしてきっとそのために私たちはいろいろなことを学ぶのではないのかなどとぼんやりと考えています。これからの時代、情報を取捨選択する能力も大切かも知れませんが、表現する技能やいろんな人と仲良くできることは今以上に要求されてくる時代になるだろうと思います。そういう意味で、コンピュータは、つながる道具・表現する道具・考える道具であって欲しいと思います。

コンピュータが普及しても学校の体質は大してかわらないかもしれませんが、コンピュータの利用の仕方に私たちの「学び」に対する見識が問われてくるのではないかと思います。「学ぶ」とはどういうことなのか、「学校」とは何なのかといったことまでも問い直されているのかもしれない。

北海道法則化合宿でモバイル！

札幌福井野中 佐藤 真史

今回「教育技術の法則化北海道合宿」が「酒井式絵画指導法」の酒井臣吾先生（7月から北海道教育大学函館校の教授に就任）を招いて7月26日27日の両日、長沼温泉にて行われました。

ACE会員の山田浩人（千歳青葉中）佐藤真史（札幌福井野中）がその前座の講座をひとこまつとめるということで、パソコンを使った美術の授業の実際を見せてきました。

山田は、「デジタルカメラは役にたつ」と題しデジタルカメラ（QV10）でとった画集や生徒作品をオーサリングソフトのGREENをつかい生徒の動機づけを高めるため、授業の導入や最後のまとめに活用しているということを発表。

佐藤は、「dosもインターネットもアニメが有効」ということでdosの98を使ったアニメーションからインターネットのGIFアニメーションの変換をその場で実際に携帯電話でインターネット接続しながら、生徒作品を見せる形で行いました。（構成：NTTドコモ携帯電話+パワーブック5300c+Appleプレゼンテーションシステム+TV）

酒井先生からも、これからパソコンを使った図工、美術の授業のシナリオをどんどん北海道から発信してほしいと励ましの言葉をいただきました。酒井式でおしえと絵の描けない生徒もいい絵が描けるようになります。

教育の現場では、どの子の可能性も大事にするんだといって、実際は、思ったとおり描きなさい、自由に描きなさいといってほったらかしの指導が多いのですが、その中で、描き方を限定することによって子供たちの可能性を広げていく「酒井式絵画指導法」が今すごい勢いで全国に広がっています。酒井式指導法のデジタル版をインターネットで展開することを今後の方向として合宿は終了しました。

（酒井式指導法の著作は明治図書出版からたくさん出ております。季刊の雑誌「楽しい絵画教室」もよろしく願います。腕が上がります）

DTM 体験講座のお知らせ

札幌音楽専門学院 見澤 眞左美

(masami@netfarm.or.jp)

みなさんこんにちは、札幌音楽専門学院の見澤です。

モバイルマルチメディアキャンプお疲れさまでした。

さて、6月にもお知らせいたしましたがコンピュータミュージック1日体験講座を再度アナウンスさせていただきます。

初心者対象のコンピュータミュージックセミナー「コンピュータミュージック1日体験講座～For Macintosh～」を下記の要領にて開催させていただきます。

この機会に皆さんお誘い合わせの上、コンピュータミュージックの魅力を存分に味わっていただきたいと思います。（いずれのコースもコンピュータ・音楽の経験は問いません。）

高校生以上を対象にしていますので、ぜひ、生徒さんにもご案内ください。よろしくおねがいします！

記

1. 「コンピュータミュージック1日体験講座～For Macintosh～」

2. と き：平成9年8月17日（日）

1 コース：午前10:00～12:00（一般対象）

2 コース：午後 1:00～ 3:00（一般対象、高校生も可）

3 コース：午後 3:00～ 5:00（高校生対象）

3. ところ：札幌音楽専門学院3Fホール

（札幌市中央区南2条西7丁目エスター中央ビル）

4. 対 象：高校生以上、一般

5. 参加費：一般 3,000円、高校生 無料

（ACE会員の方は参加費が半額となります。）

6. 機 材：Macintosh シリーズ

EZ-VISION 3.0J

ローランドサウンドキャンパスシリーズ

7. お問い合わせ、お申し込みは

011-261-6131（札幌音楽専門学院事務局）

または、siminfo@netfarm.or.jp までお問い合わせください。

まだまだ、募集していますので興味のある方は是非いらして下さい。お待ちしております！

編集後記

どうも、札幌音楽専門学院の見澤です。最近、暑い日が続いているので、家のマックとともにコワレギミです。そうそう、モバイルマルチメディアキャンプに参加した皆さんお疲れさまでした。私も最近、自然と接する機会が少なかったんでとってもりフレッシュできました！来年もまた、たくさんの皆さんとお知り合いになれることを楽しみにしています。また、8月のコンピュータミュージック体験講座もたくさんの皆さんの参加お待ちしております。よろしくね。今年のPOEMには残念ながら参加できませんが、ACE北海道遠征チームの皆さん頑張ってください。北海道から、応援してま～す！（見澤）

どくぐり塩谷です。マルチメディアキャンプも大盛況のうちに終わり、ほっとしています。みなさんありがとうございました。さて、次は8/23のデジタル押し花第2段「葉っぱ図鑑」作成大会です。今回は、ゼロックス様のご協力により林業試験場にカラーコピーAcolor搭載のショールームカーを出勤して頂き、「樹木の葉っぱ」をどんどんスキャニングして図鑑を作成します。興味のある方はご連絡下さいね。連絡先 shiotani@netfarm.or.jp（塩谷）大阪ボエムに行ってメールを取るのにリブレット20を買った。パワーブック5300CSは車じゃなければ重くて持っていく気になれなかった。画面をWINMACにして遊んでいる。心はマックだ。

（さとうまさし）

なんでも知っているけど、なんにもわかつちやいない人が増えている。創意工夫の発想を豊かにする、体験と探究そして確認の科学教育のための「バーチャル科学実験室：ゼンマイ・ハグルマ・プロジェクト」が始まった。北海道発明工夫教育連盟とかってに連帯してわれわれは、今日も進む！技術立国日本の新しい夜明けのために！（武田）

今日初めてACEの編集会議に参加しました。思っていたより明るい雰囲気でした。ACEの全国大会、頑張ってください。（山瀬）久しぶりに暑い夏。

わが家の周りではセミが大発生。庭に3匹、壁に2匹、道路に4匹・・・子供達は大喜びでつかまえています。夜には逃がしてやっています。さあ、来週は大阪POEMだ。何が起きるかわくわくです。（由水）

一年の計はPOEMにあり。真夏の大阪で、北海道支部の底力を見せるぞー！（青柳）

お金を持ってきました。おにぎりを食べました。（はんざわ）POEM行きます。圧倒的勝利で帰ります。（吉田）

教育とコンピュータ利用研究会北海道支部

1997年7月29日発行